〔表４〕社会教育課の重点施策の評価と外部評価委員の点検・評価　※推進状況など詳細は、HP などからご確認ください。

	重点施策		主な実践項目	評価	外部評価委員の点検・評価（一部）
1	生涯学習の推進	1	推進体制の確立と情報提供の充実	3.0	生涯学習については、定員に達せず未講座や受講率がコロナ禍において大きく減少しているように見受けられるが、感染対策等工夫しながら実施したことは、今後の継続的推進に繋がるとして高く評価する。参加人数を調整することによって、内容の幅も広がる可能性もあることから検討してみてはどうか。
		2	学習機会の充実		
		3	学習基盤の整備		
2	社会教育の充実	1	社会教育団体の育成強化と活性化	4.0	家庭教育においては、コロナ禍では、ますますスマホ・タブレット・ゲーム機等の利用が増えてしまうので、「スマホ・タブレット・ゲーム機等の家庭で守ろう７つのルール」の周知をお願いしたい。
		2	家庭教育・成人教育の充実		
		3	青少年健全育成の充実		
		4	人権教育の充実		
3	文化の振興と文化財保護の充実	1	文化活動の促進	3.0	青少年活動や文化活動が殆ど中止になり非常に残念である。子供たちにとってこの１年はよくも悪くも貴重な１年であったと考える。この１年を有意義に過ごすか、無駄に過ごすかで大きく変わる。今できることをできる範囲で一生懸命頑張ると次に繋がることを理解して、今後の文化・スポーツの活動を充実させて欲しいと願う。
		2	文化財の保存・活用・顕彰		
		3	市立図書館の利用・促進		
4	スポーツ活動の推進	1	生涯スポーツ・レクリエーション活動の充実	3.0	コロナ禍に外で遊ぶことが悪いことだと誤認識させないためにも、今後に期待する。今後、ますます多様化するスポーツの中で、いち早く『ｅスポーツ』の取り入れも考えてみてはどうか。
		2	体育施設の整備充実と有効活用		
		3	スポーツ団体の育成		
		4	コミュニティスポーツクラブの支援・設立		

〔表５〕国体推進課の重点施策の評価と外部評価委員の点検・評価　※推進状況など詳細は、HP などからご確認ください。

	重点施策		主な実践項目	評価	外部評価委員の点検・評価（一部）
1	第 75 回燃ゆる感動かごしま国体の開催	1	各委員会（総務企画、競技式典、宿泊衛生、輸送交通）の充実	4.0	令和２年度に行われる予定の鹿児島国体が延期になり、数年かけて開催に向けて努力してきた様子を見ているだけに本当に残念である。令和５年に行われるが、それまでに気運・雰囲気を再度盛り上げていくことは大変だと思うが、これまでの努力が無駄にならないよう、鋭意継続していただきたい。
2	綱引（公開競技）、スポーツチャンバラ（デモ競技）の充実	1	競技団体との連絡調整、普及・広報活動の充実	3.0	
3	燃ゆる感動かごしま国体・市実行委員会の円滑な事務の執行	1	予算の適正な執行、備品購入と管理の適正化	3.0	

第 17 回

たるみず歴史・文化散歩

よめじょ川

垂水領の未来のため　経済強化・民生安定

江戸時代になり徳川氏による幕藩体制が確立するにつれ、薩摩藩内では、領内の安定・充実のための疏水・開田事業が盛んに行われるようになりました。川の上流から水を引き、下流にあたる荒れ地や畑を潤すことによって水田を開発し、農作物の安定した収穫を目指したのです。垂水領では第７代島津久治（ひさはる）のころ、今の新光寺から本城川の水を引き、水之上から田神地区にかけての疏水・開田事業が計画されました。これが現在の「よめじょ川」です。

『垂水市史・上巻』（以下、『市史』）によると、久治は工事を計画するに当たり、ひたすら節約に努めたので、鹿児島の本府では「（垂水の殿様は）ひたすら金ためばかりしておられる」とけなされることもあったそうです。しかし、少しも意に介せず、貯まった金で疏水工事を実施したとされています。元禄５年（１６９２）12 月に着工、寛保元年（１７４１）12月完成、工事は実に約50年に渡り、延長は約８キロメートルです。この工事により、約二百町歩（ヘクタール）の水田が生み出されたと言われています。当時一町歩で十石のコメが取れたとされているので、約二千石が増収したことになります。垂水島津家の石高・約一万八千石を考えると、経済基盤の強化、民生安定に大いに役立ったと思われます。

よめじょ川の由来

ところで、「よめじょ川」の名前の由来については諸説あります。

『市史』には、川底の白い石英や水が清冽で輝くような美しさが花嫁の姿にも例えられたから、という説と本城川から分水して井川へめぐるのがあたかも嫁入りをさせるようであったから、という説が紹介されています。また、水之上地区では、むかしからイモリが「よめじょ」と呼ばれており、よめじょ川にはイモリがたくさんいたので「よめじょ川」と称されたという説もあります。民間信仰に詳しい大隅史談会の会員によると『水の取入れ口には水分神（みくまり）社もあり、イモリが「水神のお使い」とも考えられることから、地元の方々の説が一番説得力がある』とのことでしたが、いずれにしろ断定はできません。

よめじょ川は完成してから今年でちょうど280年です。今も地域の水田作りの動脈として使われ続けている「よめじょ川」に沿って歩いてみるのもお勧めです。

▲疏水墾田の碑（井川の右岸）

（垂水市文化財保護審議員・瀬角龍平）